

## プライマリ・ケア薬剤師と薬学

吉山友二

## Primary Care Pharmacist and Pharmacy

Yuji YOSHIYAMA

*Division of Community Pharmacy, Center for Clinical Pharmacy and Clinical Sciences, Kitasato University School of Pharmacy, 5-9-1 Shirokane, Minato-ku, Tokyo 108-8641, Japan*

医薬分業の展開や医薬品販売の規制緩和がクローズアップされて薬学実務教育が拡大する中で、医療系の人材としてのセンスと質を具えた薬剤師の役割が大いに期待されている。地域医療を支える薬剤師の役割や機能を考え、薬剤師の資質の向上とわが国のプライマリ・ケアの発展に寄与したい。薬剤師はプライマリ・ケアの理念を持って全人的かつ多角的に物事を捉えることが必要とされるが、これには専門的な高いレベルでの知識、経験、スキルが必須であり、かつ全般的な能力を備えなければならない。

本誌上シンポジウム「プライマリ・ケア薬剤師と薬学」の焦点は、プライマリ・ケア薬剤師を実践するための薬学関連知識を情報提供することである。ファーマシューティカル・ケアの実践の一部として、薬剤師に応用されるきっかけにして頂ければ幸いである。各総説の概要を以下に示す。

① 基調講演の「地域医療ネットワークと薬剤師」では、武藤正樹氏(国際医療福祉大学大学院)より、新たな医療計画の中で、地域の薬局や薬剤師の役割もはっきりと明記され、時代の中で薬局・薬剤師は新たな第一歩を踏み出すことになったことの重要性が示唆された。とりわけ、医療連携ネットワークを結ぶ情報共有ツールである地域連携クリティカルパスに果たす薬局の役割について、内視鏡的胃ろう術(PEG)に関する東京都の港区連携 PEG パス研究会の事例が魅力的に紹介されている。さらに、これまでのように処方医の処方箋を右から左に調剤していればよい時代は終わった。そして地域における薬

局・薬剤師の役割や真価が問われる時代の到来であるとの強いエールを頂戴した。

② 「薬学のスキルを活用した OTC 医薬品の提供」では、堀内 正氏(岐阜薬科大学)より、一般用医薬品(OTC 医薬品)に関する教育や OTC 医薬品の販売を取り巻く現状なども含めて、薬剤師による OTC 医薬品の提供の現状と将来について言及されている。利用者の意識調査から、適正なセルフメディケーションが行われるためには、OTC 医薬品の利用者への十分な情報提供と適切なセルフメディケーションについての啓発の必要性を示されている。また、処方薬に対する服薬説明を行っている薬学のスキルをもって OTC 医薬品及び情報提供を行えば、適切なセルフメディケーションの推進に寄与できることを提案されている。これからの薬剤師、特に保険薬局の薬剤師は、OTC 医薬品によるセルフメディケーションなどを通じて、General practitioner の役割の一部を担うように努める必要があると結論された。

③ 「プライマリケアで役立つコーチング」では、野呂瀬崇彦氏(北海道薬科大学)より、薬剤師がプライマリ・ケアに取り組む上で、患者さんとのように係わっていくべきか、特に近年注目されている対人支援手法の 1 つであるコーチングがどのように活用できるか概説されている。プライマリ・ケアが主として担うのは予防・初期医療と療養継続医療の部分であることから、患者の生活習慣改善意識や、症状、副作用の早期発見のための知識などが効果的で安全な医療を実現する上では患者がセルフコントロールできる部分、すなわち患者自身が自分の医療に積極的に介入できる部分が多い。予防・初期医療においてセルフメディケーションは重要な概

念であり、薬剤師としてその職能を発揮すべき領域においては、コーチングという係わり方は、患者中心の医療を進める上では有効な介入方法であることが期待される。

④「プライマリ・ケアの地域住民啓発事業」では、オーガナイザーの飯塚敏美氏(望星薬局)より、プライマリ・ケアの地域住民啓発事業の具体的事例として、C型慢性肝炎治療における医療機関と保険薬局の連携が紹介されている。基調講演で武藤氏も強調されているように、最近では、地域医療連携と保険薬局の役割がクローズアップされている。薬局薬剤師が地域医療連携に積極的に係わることは、患者背景の把握や患者にとって安全な薬物療法を実践するきっかけとなり、プライマリ・ケア薬剤師の職能発揮の好機であると思われる。お薬手帳を活用した病診薬薬連携として、お薬手帳型C型慢性肝炎治療地域連携パスの特徴が概説され、プライマリ・ケア薬剤師を実践する上で、優れたツールであることが示されている。

シンポジストであるが誌上シンポジウムに参加しなかった、「プライマリ・ケア薬剤師に期待する」と「プライマリ・ケアと薬学」の概要を記す。内山充氏(薬剤師認定制度認証機構)より、プライマリ・ケア領域での職能を身につけた薬剤師には、市民生活における健康上の不安解消のための信頼の置ける相談相手として、様々な活動が期待されることが示された。薬剤師の社会的責務として最も期待されている分野であり、地域社会の健全な発展に貢献するために、できるだけ多くの薬剤師が、このことを認識し、役割を果たすための努力をする必要があるこ

とが提言された。そのためには、薬学本来の基盤的知識を生かしながら、目的をしっかりと見据えた計画的な学習による、生涯を通じた継続的な職能向上の努力が必要であると結論した。また、吉山友二(北里大学薬学部)は、プライマリ・ケアについては、病院外来薬剤業務では対応に限界があるため、当然のことながら保険薬局の役割が求められることから、プライマリ・ケアにおけるファーマシューティカル・ケア実践のチャンスが今、訪れていることを強調した。新しい形の実践に身をゆだね、すぐに具体的な行動を開始すれば薬剤師によるファーマシューティカル・ケアがプライマリ・ケアを中心として実践される意義は大であると結論した。

本誌上シンポジウムは、2010年3月に開催された日本薬学会第130年会でのシンポジウム「プライマリ・ケア薬剤師と薬学」での発表を元に、シンポジストの先生方に最新の知見をまとめて頂いた。

ファーマシューティカル・ケアの実践は薬剤師の集大成とも言え、より多くの薬剤師によるプライマリ・ケアを意識した取り組みが必要であり、ファーマシューティカル・ケアの実践に関する誌上シンポジウムをまとめることは、相互の会員にとって大変有意義なことと思われる。臨床はもちろんのこと、基礎とよき相互連携しつつ、ファーマシューティカル・ケアを展開したいものである。これらの誌上シンポジウムの内容を通読することにより、プライマリ・ケアを含めたファーマシューティカル・ケアの実践に応用することが薬学関係者の腕の見せ所と確信している。